

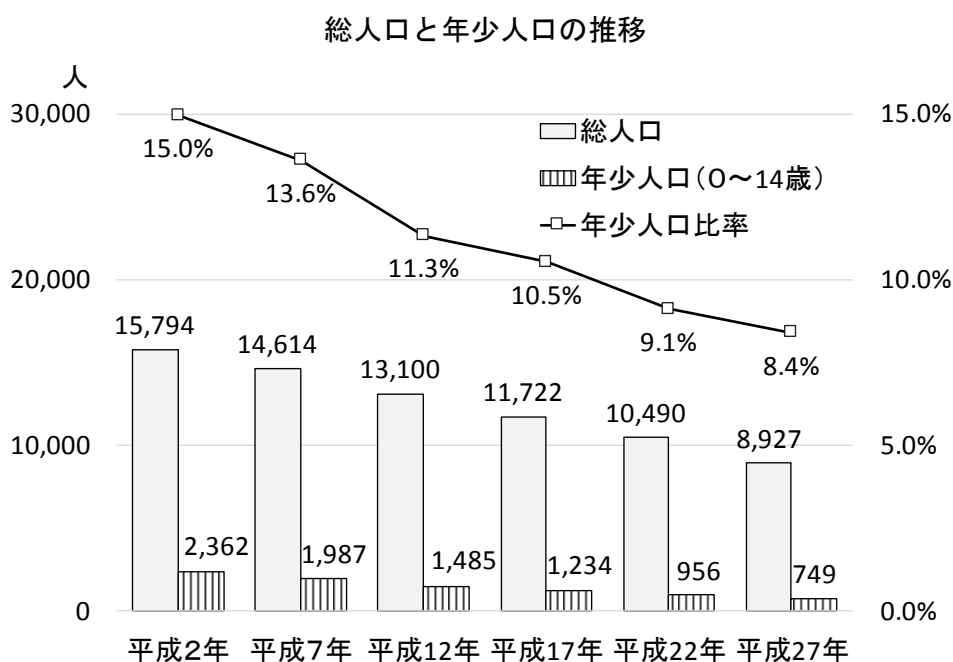
第2章 つるぎ町の子ども・子育てを取り巻く状況

1 人口・世帯の状況

(1) 総人口と年少人口の状況

全国的に少子高齢化を背景とする人口減少が深刻化する中、つるぎ町の総人口は一貫して減少傾向で推移しており、平成27年には8,927人に減少しています。

また、年少人口（0～14歳）も減少し、平成27年には749人となっており、年少人口比率は8.4%と、全国平均の12.5%や県平均の11.5%より、大幅に低くなっている状況です。



資料：国勢調査

年少人口比率の全国平均・県平均との比較

		0～4歳	5～9歳	10～14歳	0～14歳計
つるぎ町	年齢区分別人口	202	213	334	749
	総人口に対する構成比	2.3%	2.4%	3.7%	8.4%
徳島県	総人口に対する構成比	3.5%	3.8%	4.2%	11.5%
全国	総人口に対する構成比	3.9%	4.2%	4.4%	12.5%

資料：国勢調査

(2) 子育て世帯の状況

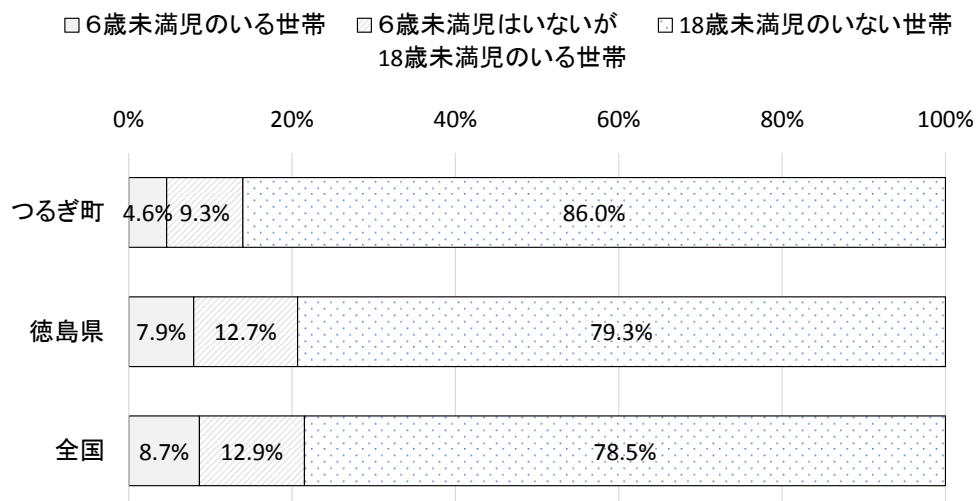
平成 27 年国勢調査によると、本町の一般世帯 3,828 世帯のうち、6 歳未満児のいる世帯は 178 世帯 (4.6%)、6 歳以上 18 歳未満の児童のいる世帯は 357 世帯 (9.3%) で、全国平均や県平均より子どものいる世帯の比率は低くなっています。

また、6 歳未満児のいる 178 世帯のうち、夫婦と子どもから成る世帯は 100 世帯、父子世帯は 1 世帯、母子世帯は 8 世帯、三世帯同居などは 69 世帯で、夫婦と子どもから成る世帯の構成比が全国平均や県平均より低く、三世帯同居の構成比が高い状況です。

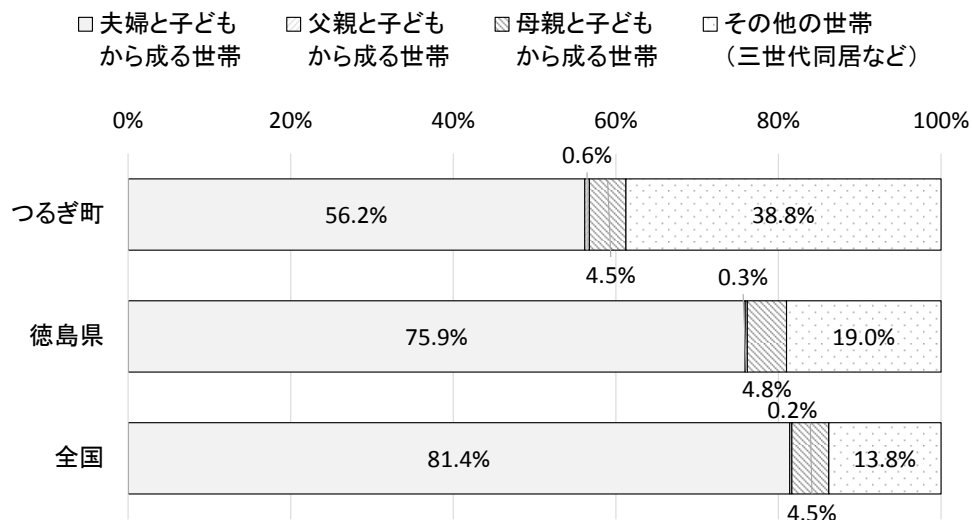
子どものいる一般世帯の数と構成比 (平成 27 年国勢調査)

	合計	6歳未満児のいる世帯	18歳未満児のいる世帯	18歳未満児のいない世帯	6歳未満児のいる世帯	18歳未満児のいる世帯	18歳未満児のいない世帯
合計	3,828	178	357	3,293	5%	9%	86%
夫婦と子どもから成る世帯	639	100	177	362	16%	28%	57%
父親と子どもから成る世帯	67	1	9	57	1%	13%	85%
母親と子どもから成る世帯	339	8	60	271	2%	18%	80%
その他の世帯(三世帯同居など)	2,783	69	111	2,603	2%	4%	94%

子どものいる世帯構成比の全国平均・県平均との比較 (平成 27 年国勢調査)



6 歳未満児のいるひとり親世帯等の構成比 (平成 27 年国勢調査)

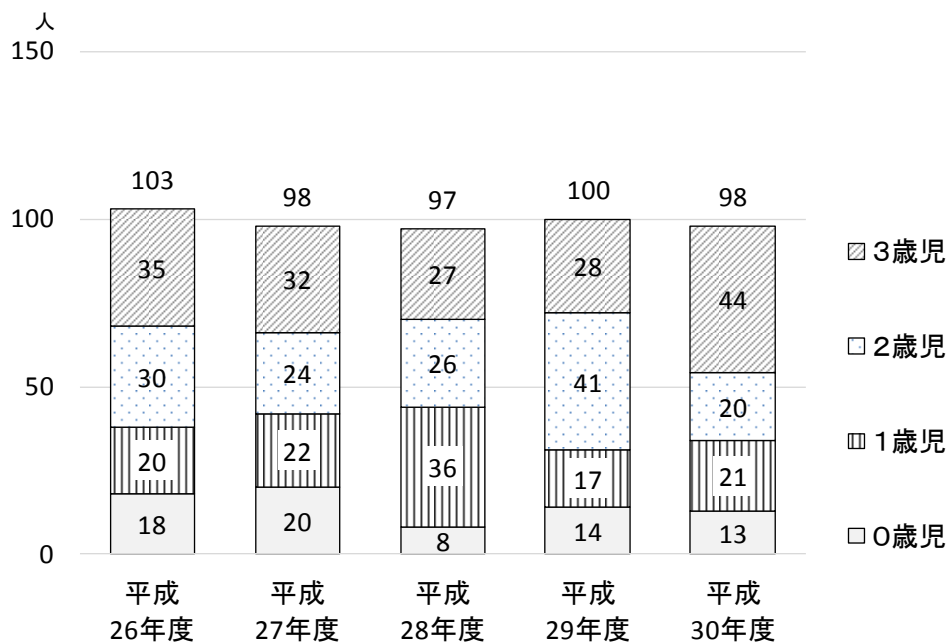


2 保育所・幼稚園の利用状況

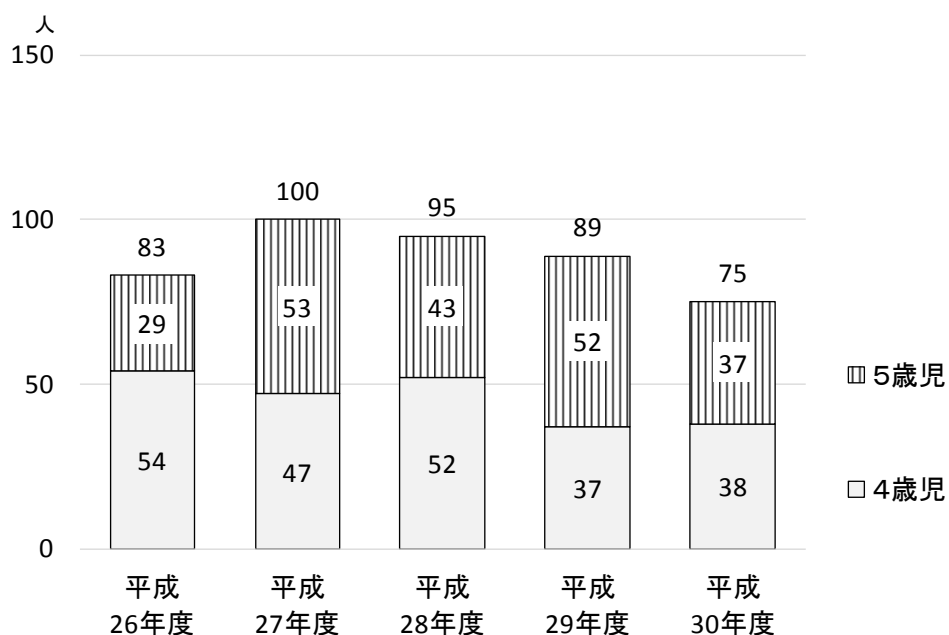
本町では、0～3歳児は町立保育所に、4～5歳児は町立幼稚園に、通所・通園することができます。

平成30年度末の保育所、幼稚園の通所・通園の状況をみると、保育所は98人、幼稚園は75人となっており、保育所はほぼ横ばいで推移していますが、幼稚園は過去4年間、減少傾向となっています。

保育所の通所児数（各年度末現在）



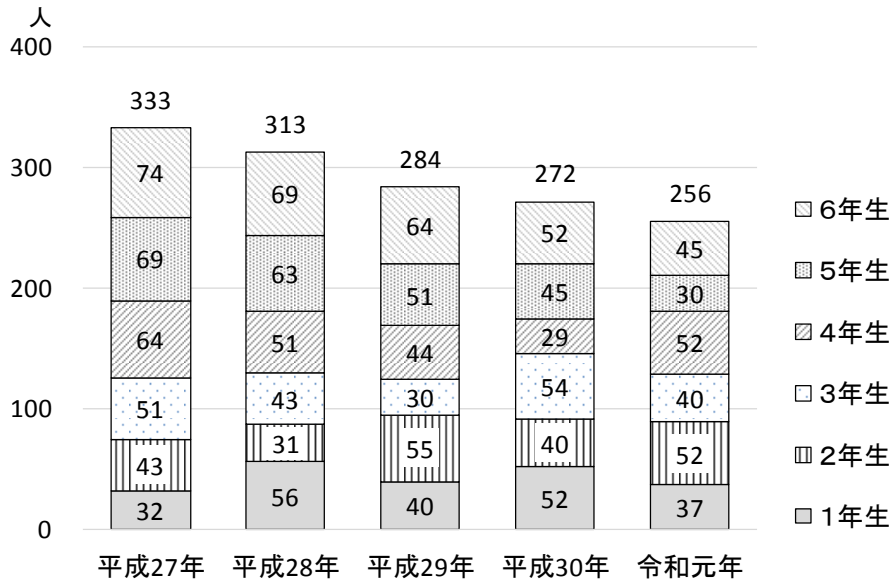
幼稚園の通園児数（各年度末現在）



3 小学校の児童数

学校基本調査によると、令和元年5月現在の本町の小学校の児童数は256人で、減少傾向にあり、平成27年に比べ2割以上減少しています。

小学校の児童数（各年5月1日現在）



4 子ども・子育てに関する実態と意向(アンケート調査結果から)

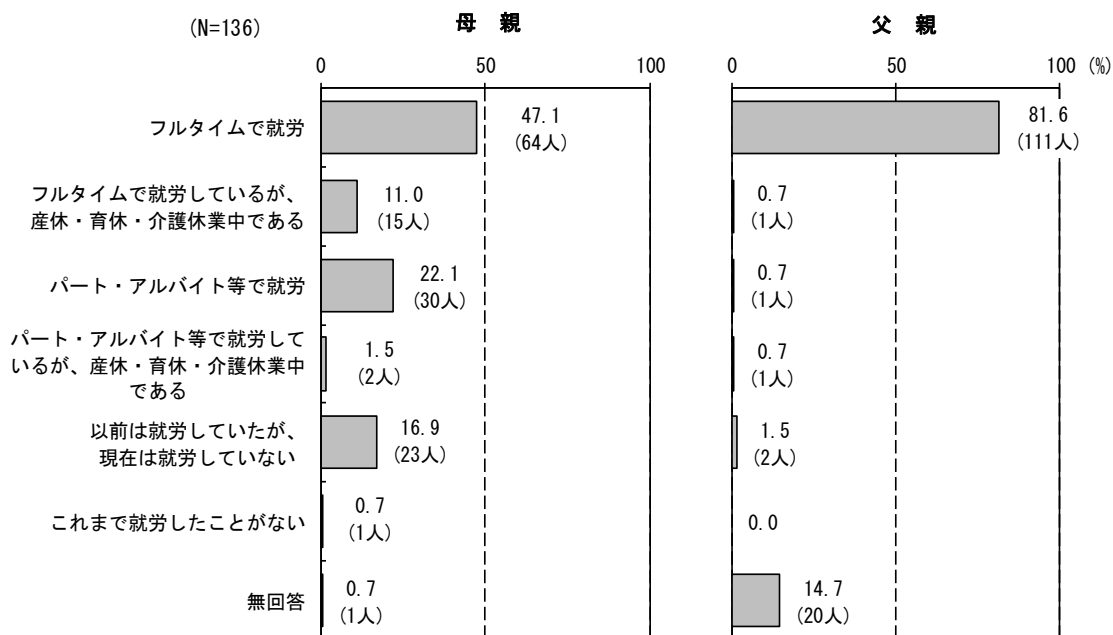
(1) 就学前児童アンケートから

① 父親・母親の就労状況

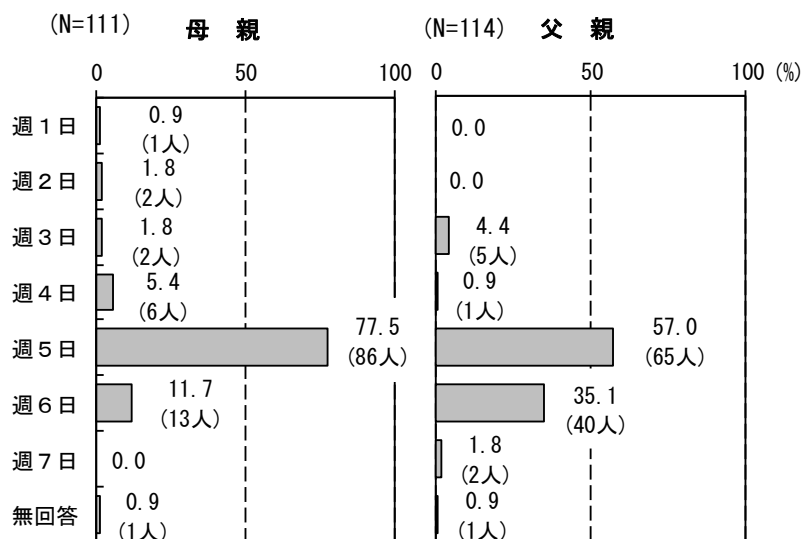
就学前児童のいる家庭の就労状況は、父親ではほとんどが「フルタイムで就労」であり、母親も就労していない割合が2割程度であるなど、共働き世帯が多いことがわかります。

母親の就労日数も大半が週5日以上となっており、本町において、就労と子育ての両立支援は不可欠と言えます。

父親・母親の就労の有無・形態

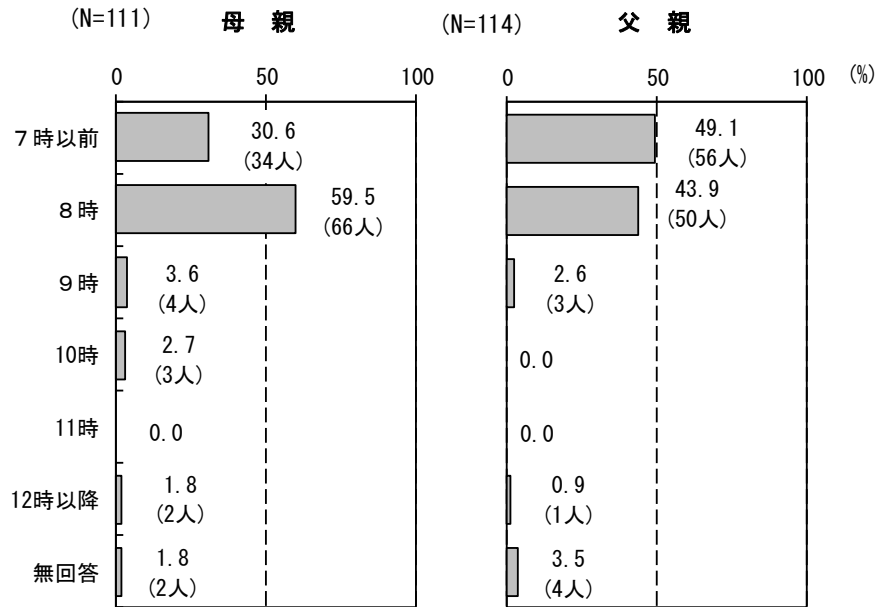


働いている父親・母親の就労日数

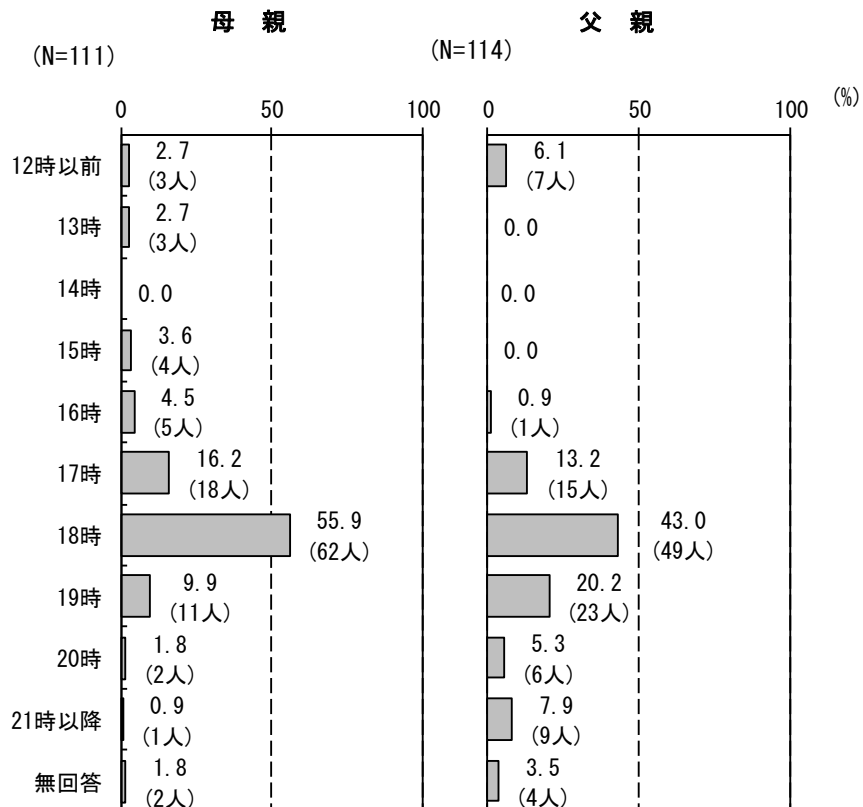


就労している父親、母親の家を出る時間は、母親では8時台が多くなっていますが、父親では7時台やそれ以前も多く、帰宅時間についても、父親では20時以降という回答もみられ、勤務が長時間にわたっている状況も見てとれます。

働いている父親・母親の「家を出る時間」

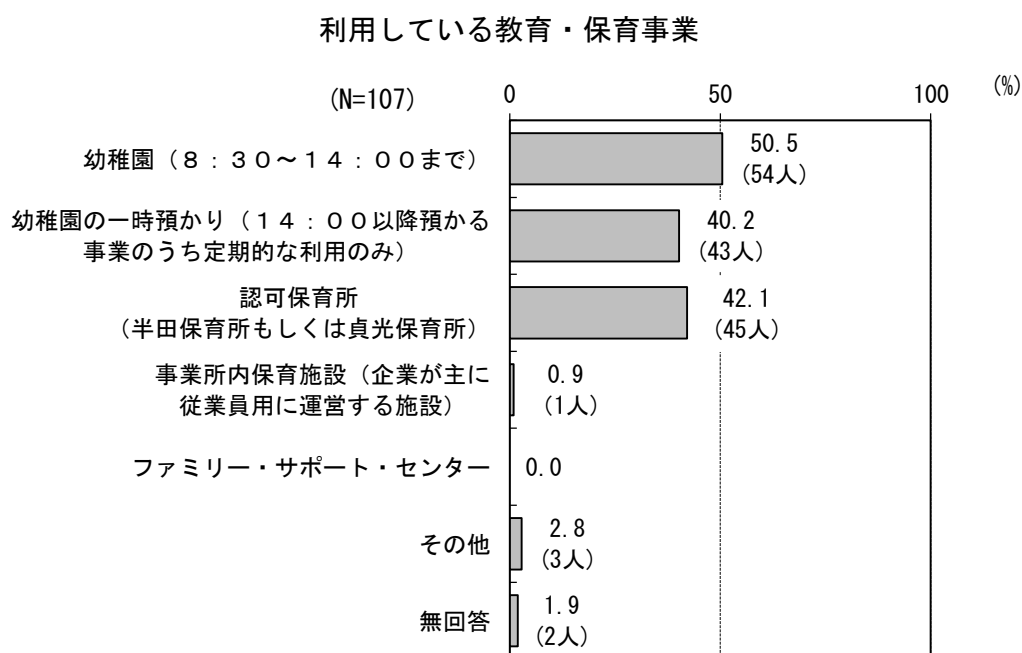


働いている父親・母親の「帰宅時間」



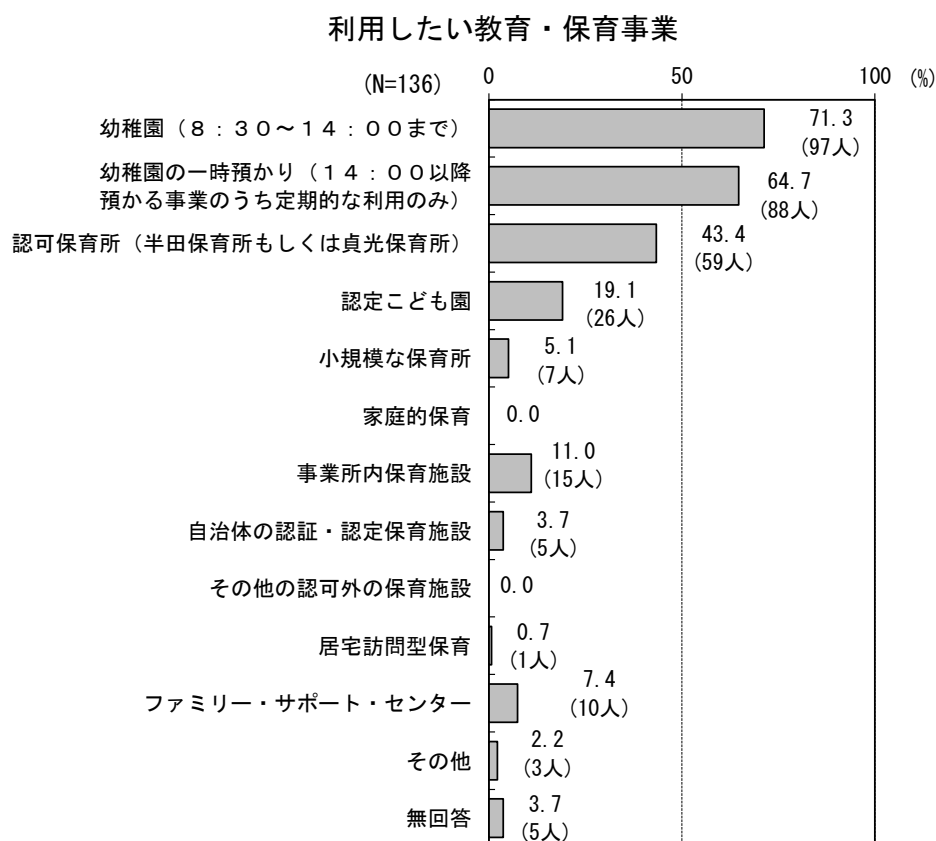
② 利用している教育・保育事業【複数回答】

利用している教育・保育事業としては、「幼稚園」、「保育所」、「幼稚園の一時預かり」のほか、「事業所内保育施設」という回答が1人ありました。



③ 定期的にご利用したい教育・保育事業【複数回答】

定期的にご利用したい教育・保育事業としては、「幼稚園」、「保育所」、「幼稚園の一時預かり」のほか、「認定こども園」、「事業所内保育施設」、「小規模な保育所」といった回答もみられます。

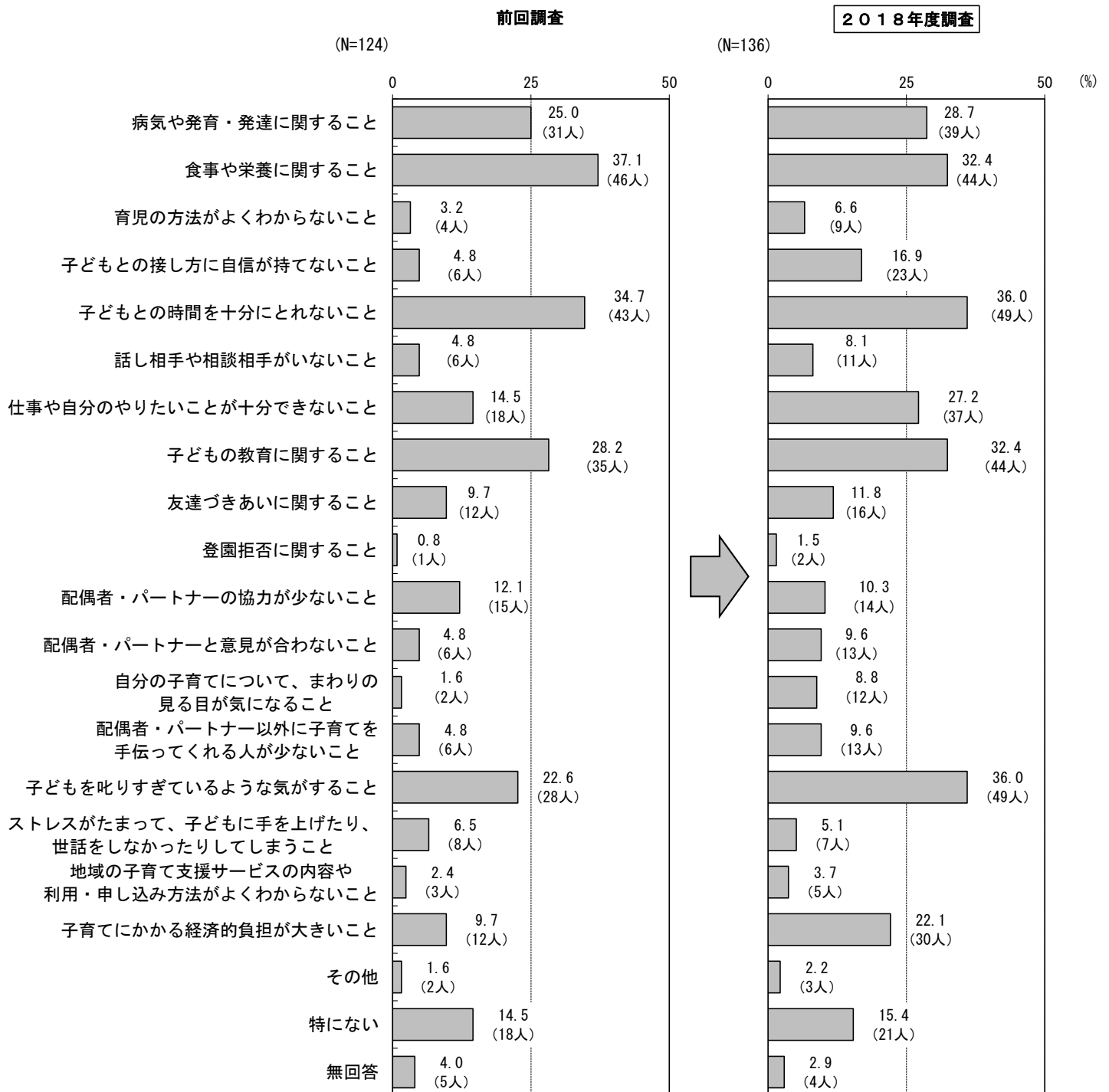


④ 子育てに悩んでいること [複数回答]

「子育てに悩んでいること」を複数回答でお聞きしたところ、「子どもとの時間を十分にとれないこと」と「子どもを叱りすぎているような気がすること」が36.0%で最も多く、次いで「食事や栄養に関すること」と「子どもの教育に関すること」が32.4%、「病気や発育・発達に関すること」が28.7%の順となっています。

平成25年度に実施したアンケート調査結果と比較してみると、「子どもを叱りすぎているような気がすること」など割合が上昇している項目もみられることから、町として現状をおさえた上で、可能な支援を検討していくことが求められます。

就学前児童の保護者が子育てに悩んでいること

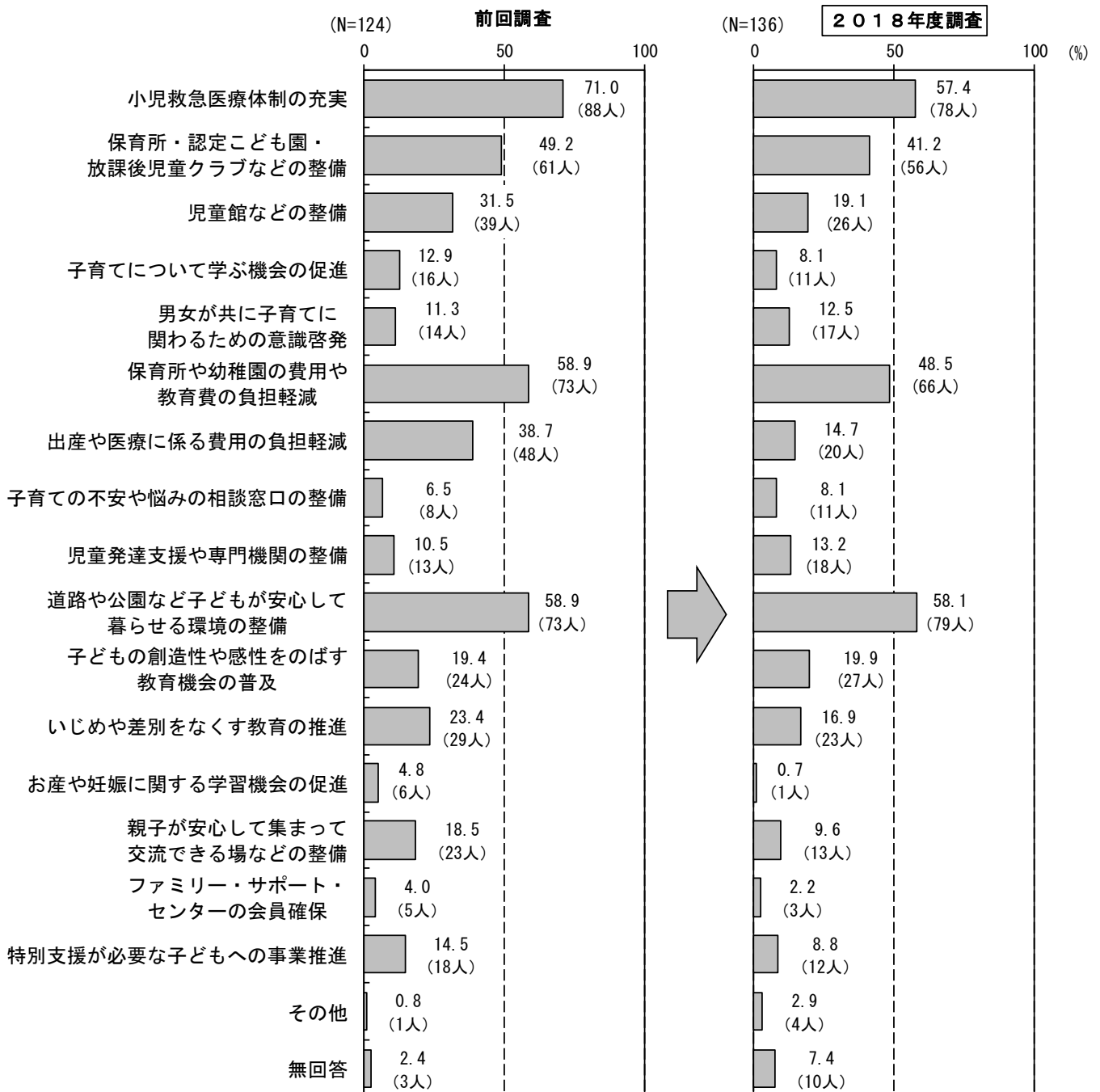


⑤ 子育てしやすいまちとなるために必要なこと [複数回答]

「子育てしやすいまちとなるために必要なこと」を複数回答でお聞きしたところ、「道路や公園など子どもが安心して暮らせる環境の整備」、「小児救急医療体制の充実」、「保育所や幼稚園の費用や教育費の負担軽減」などが多くなっています。

平成 25 年度に実施したアンケート調査結果と比較してみると、多くの項目の割合が低下する中で、「道路や公園など子どもが安心して暮らせる環境の整備」は前回とほぼ同程度となっており、就学前児童の保護者は、交通安全や防犯などの施策や、公園の環境整備などに高いニーズを持っていることが改めて認識されます。

就学前児童の保護者が子育てしやすいまちとなるために必要と思うこと



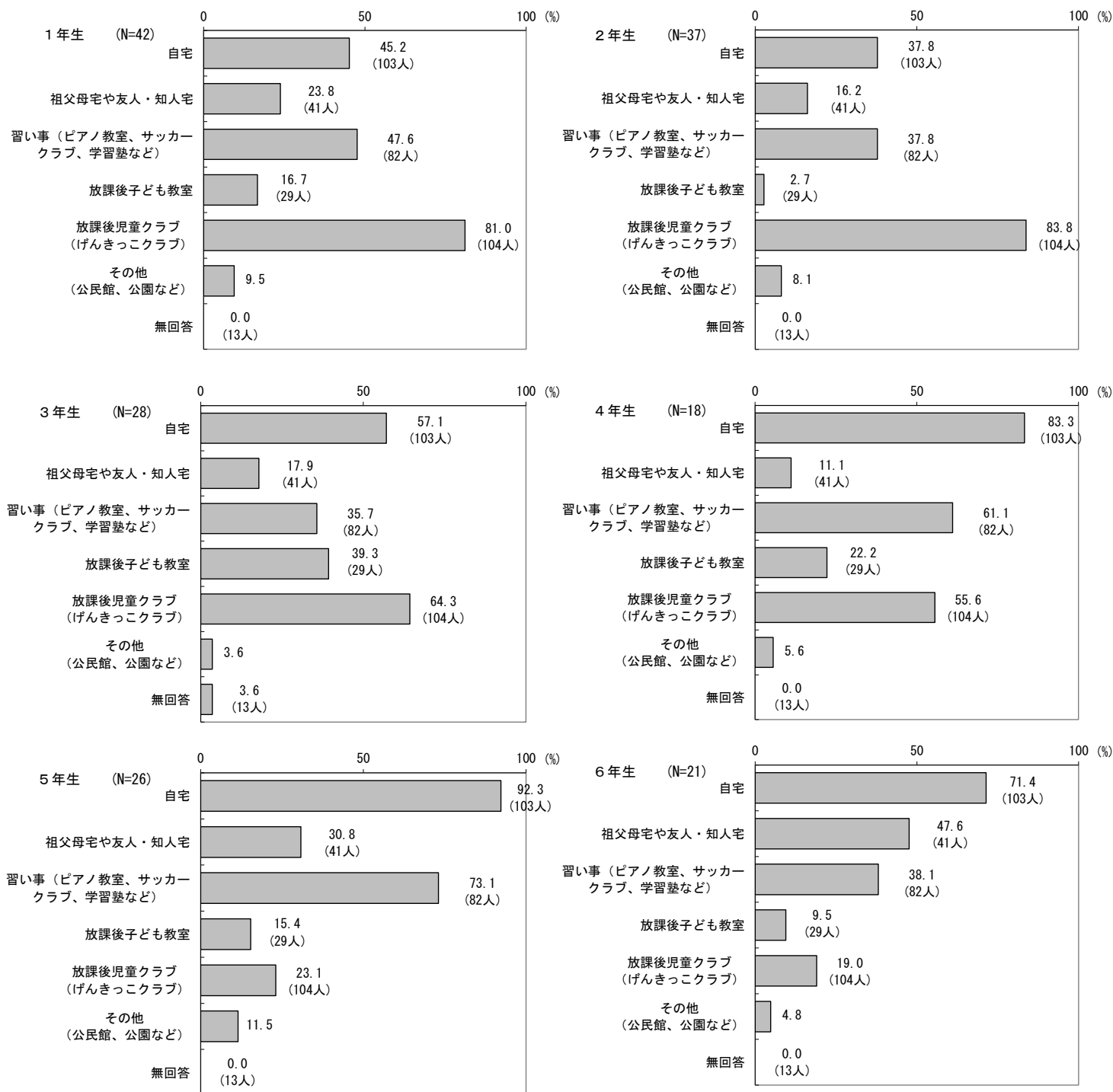
(2) 小学生アンケートから

① 放課後を過ごす場所の希望 [複数回答]

放課後を過ごす場所の希望を児童の学年別にみたところ、放課後児童クラブは、1～2年生で約8割、3～4年生で6割前後、5～6年生で2割前後の希望がみられました。

また、習い事は1年生ですでに約半数の希望があり、5年生になると約7割に習い事の希望があります。

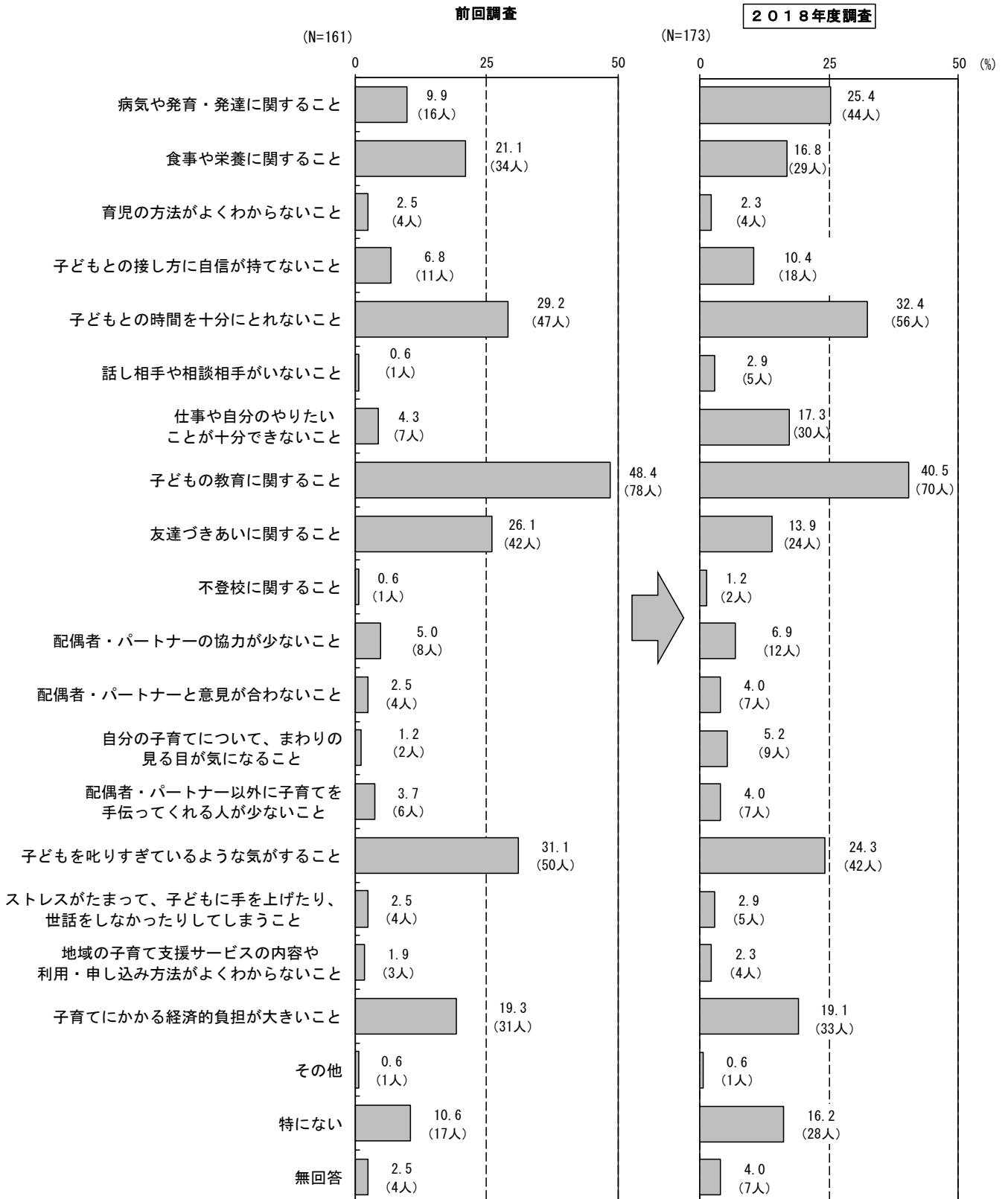
放課後を過ごす場所の希望



② 子育てに日常悩んでいること [複数回答]

「子育てに悩んでいること」を複数回答でお聞きしたところ、平成 25 年度に実施したアンケート調査結果と同様に、「子どもの教育に関すること」が最も多くなっていますが、「病気や発育・発達に関すること」が同アンケートと比較し、大きく割合が上昇しています。

小学生の保護者が子育てに悩んでいること



③ 子育てしやすいまちとなるために必要なこと [複数回答]

「子育てしやすいまちとなるために必要なこと」は、就学前児童アンケートと同様に、「道路や公園など子どもが安心して暮らせる環境の整備」、「小児救急医療体制の充実」が多くなっています。

平成 25 年度に実施したアンケート調査結果と比較すると、「いじめや差別をなくす教育の推進」の割合が低下する一方、「子どもの創造性や感性をのばす教育機会の普及」の割合が上昇しており、教育施策について、ニーズに変化がみられることがわかります。

小学生の保護者が子育てしやすいまちとなるために必要と思うこと

